

平成 29 年度森林吸収源インベントリ情報整備事業中部・近畿および中国・四国ブロック地域講習会（兵庫県）

開催日：2017 年 6 月 9 日（金）

調査地点：兵庫県多可郡多可町（格子点 280355）

講師 岡本（森林総合研究所関西支所）、酒井（寿）・稲垣（善）・志知（森林総合研究所四国支所）、相澤・三浦（森林総合研究所本所）

中部・近畿ブロックおよび中国・四国ブロックの調査を担当する株式会社一成を対象に、兵庫県多可郡多可町の民有林で現地講習会を実施した。受講者は株式会社一成の 6 名の他、九州ブロックで現地講習会に参加できなかった（株）九州自然環境研究所の 1 名が参加した。受講者のうち 5 名は未経験者であった。西脇市内のコンビニエンスストアに 9 時 20 分ごろ集合した。その後、調査地点近くの広場に駐車して、調査準備をした。駐車場所を出発して鎖で閉鎖された道路を徒歩で登り、道路から尾根を下って調査地点に 10 時ごろに到着した。調査地点は、上層にあったアカマツの多くが枯死しており、下層に広葉樹が発達していた。急な斜面のため移動は困難であった。

中心杭、外周杭を見つけ、メジャーを張った。見通しが悪い場所では、中間地点に人が立ってサポートするとよいことを指導した。ライン長の測定、概況調査、写真撮影を順番に進めた。未経験の受講者は調査道具がどこに入っているかを十分に把握していなかったため、道具を探すのに時間を要した。また、レーザー測器の電池が消耗していたが予備の電池と交換して調査を継続することができた。事前に携行品を確認することの重要性を指摘した。

11 時過ぎに枯死木調査を開始した。受講者を 2 つのグループに分けて、南北、東西のラインで調査を行った。ライン上には倒木はなかった。倒木や根株の崩れている部分の直径測定について質問があったので、今年度の説明会資料に基づいて、元の形を復元するのではなく、物理的に形が残っている部分で測定すると説明した。高い根株があり、軸方向から写真撮影ができない場合は横方向から撮影することを説明した。枯死木調査を 12 時ごろに終えて昼食とした。

昼食後 4 班に分かれて土壌炭素蓄積量調査を行った。

N 地点は未経験の受講者 1 名であった。作業毎に講師が手本を示した後に受講者が作業した。円筒試料は 0-5cm 深度を講師が採取し、5-15cm 深度を受講者が採取した。15-30cm 深度は大部分を巨礫が占めた（礫率 90%）ため、試料採取は VBC とした。

E 地点は経験者の 2 名であった。土壌調査の習熟度が非常に高く、新しい調査方法もよく理解しており、指摘するような点はほとんど無かった。昨年度の実務の状態を聞いたり、試料採取のコツなどを話したりして講習を進めた。調査しやすい場所であったこともあって、早く調査を終えることができた。

S 地点は未経験者 2 名であった。調査の流れを説明し、マニュアルでは理解しづらい堆積有機物と土壌の採取方法を中心に指導した。時間配分は気にせず、必要なところでは時間を

かけて指導した。堆積有機物層は一緒に採取し、土壌は化学性の 0-5cm 深度だけ講師が方法を示し、残りの深度は受講生が採取した。円筒試料の採取はすべての深度について受講生が行った。

W 地点は未経験者 2 名であった。断面作成と整形は基本的に受講者が行った。堆積有機物採取と石礫率の判定についての考え方について丁寧に説明した。化学性の試料採取は 5-15cm 深度以降、受講生が行った。試料採取前に断面が鉛直であるか確認し、そうでない場合は鉛直に削ってから採取するように伝えた。円筒試料の採取は 5-15cm 深度のみ受講生が行った。風化礫が多いために採取に時間を要した。

16 時半頃 N 地点に全員が集合し、混合試料を作成した。塊になっている試料があったので、各地点の化学分析用試料は混合前によくほぐす必要があることを指摘した。試料採取用のポリ袋ラベルがマニュアルと異なっていたので、現場でのミスを避けるためにはマニュアル通りの方が良いと指摘した。すべての調査を終えて下山し、駐車場所で講評の後 17 時半頃解散した。

土壌炭素蓄積量調査は 4 班に分かれて同時に行ったので、未経験者が実習する時間を十分取ることができた。経験者は調査に習熟しており、未経験者もマニュアルを理解していた。一方で、今後改善すべき点として、事前にしっかり携行品を確認することを指摘した。



巻尺による枯死木調査ラインの設置



根株の写真撮影



堆積有機物の写真撮影



VBC 試料採取の説明



試料の混合



終わりのあいさつ